

4. この体験活動の「具体的場面と学習テーマ例」

⑫ 交流体験―具体的場面と学習テーマ例

熊本県熊本市立出水南小学校 村上浩一

一、養護学校との交流

本校は、創立23年の学校で、創立当時から隣接している熊本県立熊本養護学校との交流学習が続いている。特に、4年生は1年間を通して、総合学習の中で50時間の体験学習ができるようになっていく。子どもたちは、この交流学習を3年生の頃から楽しみにしており、教師もいろいろな学びができる場となっている。

二、交流学習の内容

交流は、1回あたり20分間、週2回のわずかな時間だが、子どもたちは各自のパートナーと触れ合う。外で元氣よく走り回ったり、校内で遊具を使って遊んだり、絵を描いたりして、毎時間の交流を楽しむ。言葉を介さない触れ合いが主となるが、お

互いが体や目で「友人」として認め合っているようである。交流最初の日（お見知り

会）は皆が緊張しているが、回数を重ねる度にお互いがお互いを知り合い、心が通じるようになる。1年間の中で数回のイベントも行い、招いたり招かれたりということ

で、交流を深めているところである。子どもたちは、20分間の学習終了後、教室へ帰り、その日の振り返りを日記として記録していく。このまとめを2月末に、次期交流学年となる3年生に報告をしていくということになる。2月の交流最終日は、こちらが涙をもらいそうになる場面を見ることになる。なお、他学年も年2回の交流集会等々を通じて、触れ合っていくことになる。

□□□三、UDを探そう！

UDとは、ユニバーサルデザインの略称である。「交流」という体験を「宝物」として残していくためには、一方で系統だった問題解決学習を仕組んでいく必要があると考えた。そこで、次のような目標を立てて、総合学習（20時間）の授業を交流と同時進行で進めていった。

- ① 「知識・認識面」社会環境にバリアが多いことを知り、UDが必要であることを認識する。
- ② 「技術面」弱者の視点でUDを見つけ（フィールドワーク）、情報を整理し、発信していく力をつける。
- ③ 「態度・行動面」人に優しく、一市民として社会環境をこう改善していくという提言する力をつける。

